

第 5 学年 社会科学学習指導案

1 単元名 わたしたちの生活と工業生産「自動車をつくる工業」(東京書籍 5 年下 pp. 10～25)

2 単元について

- 本小単元は、新学習指導要領解説社会編の第 5 学年の目標及び内容 (3) を受け、設定したものである。具体的には、「我が国の工業生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図やグラフなどの統計資料で調べ、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること」「工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること」「我が国の工業生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと」をねらいとする内容として位置付けられている。

わたしたちの生活にとって工業製品はなくてはならないものであり、自動車は特に身近な工業製品である。その自動車は、工業に関わる人々の様々な努力や工夫によって消費者の元へ届けられている。よりよい自動車を効率よくつくるための組み立て工場での工夫や、関連工場との連携、世界中へたくさんの自動車を輸送する工夫などにより、日本の自動車は世界中に輸出されている。しかし、その一方で、自動車工業を取り巻く状況は、現地生産の増加による日本国内の産業の空洞化や若者の自動車離れによる国内販売台数の落ち込みといった問題を現在抱えており、必ずしも明るいとは言えない。本小単元では、日本の基幹産業である自動車工業について調べさせることを通して、自動車の生産に関わる人々の努力や工夫について考えたり、自動車工業の問題を解決するために様々な立場で考えたりすることをねらいとしている。社会科の究極的なねらいである「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」の育成につながる内容として適していると考え、本単元を設定した。

- 本学級の児童は、これまで農業や水産業、食料生産の単元において調べたことを基に考えを交流する学習活動に取り組んできた。社会科の学習についての意識調査によると、話し合う学習活動において、「自分で調べて分かったことや考えたことを基に話し合っている」と答えた児童が 27 名中 16 名であった。「分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートに書いている」と答えた児童は 19 名であった。調べる学習活動に関する質問に比べて、比較的主体的に学習に取り組んでいる様子がうかがえるが、学習活動中の様子を見ると、一見すると活発に意見交流をしているが、意見交流を通して互いに考えを深めることには至っていないようである。これまでの単元において、根拠となる資料を明確にさせたり、資料から読み取った情報と事実に基づく考えを区別させたりする手立てを取り入れた結果、互いの考えに対し、少しずつ質問や意見を述べるできるようになっている。

本単元で取り扱う自動車工業については、児童全員の家庭が車を所有して、普段から出かけたり移動をしたりする際に自動車を利用していることから、児童にとっては身近な工業製品であると言える。ただ、自動車の製造工程や日本の自動車工業を取り巻く諸問題などには考えが及んでいない。

- 指導に当たっては、「学習問題をつかむ」過程で、外国でもたくさんの日本の自動車が走っていること、発展途上国では日本の中古自動車も人気があるということを資料を基に説明し、人気の理由や

流通の広がりに関する疑問を基に、学習問題「日本の自動車はどのようにしてつくられ、どのようにして世界中に運ばれているのか」を設定する。そして、学習問題を解決するためには、よりよい自動車を効率よくつくるために様々な工夫や努力があること、外国との関係などについて調べる必要があることに気付かせた上で、学習計画を立てさせたい。

「調べる」過程では、よりよい自動車を効率よくつくるための工夫や関連工場との連携、外国への輸送について、教科書や資料集、地図帳などから資料を読み取らせながら調べる学習活動に取り組みせる。その際、資料から必要な情報を確実に読み取ることができるように、調べるための資料を限定して示しながら進めていく。さらに、資料から情報を読み取る視点を確認して調べる内容を明確にすることで、資料の読み取りが苦手な児童への手立てとしたい。また、調べた事実を基に自分の考えをもつことができるように、根拠となる資料を明確にさせたり、資料から読み取った情報と事実に基づく考えを区別させたりする手立てを取り入れたい。本時においては、「これからの日本の自動車づくりは、『輸出』『現地生産』どちらを優先すればよいのか。」という論題で討論を設定する。その際、自分の立場を決定させ、考えの根拠となる資料を明確にした上で、自分の考えを記述させる。討論では、児童相互の意見がかみ合い、全体の考えを深めることができるように、教師が児童の意見を「現地の人にとってどうか」「日本国内の産業はどうなるのか」などの視点を基に児童の意見を整理しながら問い掛け、焦点化して考えさせる。

「考え・まとめる」過程では、「調べる」過程で調べたことや考えたことを基に、総合的に考えることができるように、これまでのノートやワークシートの記述を振り返らせ、自分の言葉で学習問題の答えを記述することができるようにしたい。

3 単元の目標

自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、輸送方法、優れた技術などに着目して、地図帳や各種の資料で意欲的に調べ、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考えることを通して、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた自動車を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解できるようにする。

4 評価規準

【現行の評価の観点による評価規準】

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の自動車工業の様子に関心をもって意欲的に調べている。 ○国民生活を支える自動車工業の役割や発展について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国の自動車づくりについて疑問をもち、学習問題や学習計画を考え、表現している。 ○これからの日本の自動車づくりについて、自動車づくりの工夫と社会的な問題とを関連付けて考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題や本時の課題の解決に必要な資料を収集している。 ○各種統計資料や写真などから必要な情報を読み取っている。 ○各種統計資料や写真などから読み取ったことをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車の生産に関わる人々は、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をして、自動車の生産を支えていることを理解している。 ○自動車の生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応して自動車づくりを行っていることを理解している。

【新しい評価の観点による評価規準】

※新学習指導要領の評価の観点で示した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○各種統計資料や写真などから読み取ったことをまとめ、自動車の生産に関わる人々は、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をして、自動車の生産を支えていることを理解している。</p> <p>○各種統計資料や写真などから必要な情報を読み取り、自動車の生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応していることを理解している。</p>	<p>○我が国の自動車づくりについて疑問をもち、学習問題や学習計画を考え、表現している。</p> <p>○これからの日本の自動車づくりについて、自動車づくりの工夫と社会的な問題とを関連付けて考え、適切に表現している。</p>	<p>○我が国の自動車工業の様子に関心をもって意欲的に調べている。</p> <p>○働く人々の工夫や努力によって国民生活を支える自動車工業の役割や発展について考えようとしている。</p>

※佐賀県教育センター「プロジェクト研究（小学校社会科教育研究委員会）」の試案である。

5 単元計画（全9時間 本時7/9） …質的改善を図った手立て

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
学習問題をつかむ	○外国でも多くの日本の自動車が走っていること、また、日本の中古自動車も人気があることから、疑問や予想を基に、学習問題を設定する。	○外国の道路でたくさんの日本車が走っている写真を提示し、なぜ日本の自動車は世界中で人気があるのか考えさせることで、学習問題を立てさせる。	・我が国の自動車工業の様子に関心をもって意欲的に調べている。 【関】	1
	日本の自動車はどのようにしてつくられ、どのようにして世界中に運ばれているのか(学習問題)			
調べる	○学習問題について予想し、どのようなことを調べればよいか考え、学習計画を立てる。	○児童が学習計画を立てることができるよう、1時目で出た疑問を再度確認し、その疑問に対する予想を書くように促す。	・日本の自動車が世界でたくさん走っている理由を考え、学習問題を見だし、予想を立て、学習計画を立案し表現している。 【思】	1
	○組み立て工場で働く人々は、どのように自動車をつくっているのか調べる。	○自動車の作業工程について意欲的に調べることができるよう、教科書や資料集の写真に加えて、組み立て工場の動画を見せる。	・学習問題や本時の課題の解決に必要な資料を収集している。 【技】 ・各種統計資料や写真などから必要な情報を読み取っている。 【技】	1
	○自動車工場で働く人々が、よりよい自動車を効率よくつくるために様々な工夫や努力をしていることを調べる。	○働く人々の工夫や努力を資料から探し出すことができるように、組み立て工場の様々な写真を提示する。また、写真から分からない工夫について考えることができるように、「何のためにしているのかな」と作業の目的を問い掛ける。	・自動車の生産に関わる人々は、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をして、自動車の生産を支えていることを理解している。 【知】	1

<p>○自動車の部品がどのようにつくられ、組み立て工場に運ばれているかを調べる。</p>	<p>○組み立て工場の中だけではなく、関連工場と連携を図りながら作業を行っていることに気付くことができるように、シート工場の資料を提示する。</p>	<p>・自動車の生産に関わる人々は、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をして、自動車の生産を支えていることを理解している。 【知】</p>	<p>1</p>
<p>○注文した自動車が消費者に届くまでの過程を調べ、輸送方法や現地生産のメリット・デメリットについて調べる。</p>	<p>○自動車がどのようにして消費者の元へ届くのか、輸送方法や輸送経路について調べさせる。 ○現地生産のメリット・デメリットについて考えることができるように、現地生産台数が増えている資料を基に「このまま現地生産が増えていくとどんなことが起きそうかな」等と問い掛ける。</p>	<p>・各種統計資料や写真などから必要な情報を読み取っている。【技】 ・各種統計資料や写真などから読み取ったことをまとめている。【技】</p>	<p>1</p>
<p>○「これからの日本の自動車づくりは、『国内生産』と『現地生産』のどちらを優先すればよいのか、話し合う。</p>	<p>○資料を基に意見を述べるができるように、根拠が不明瞭な意見が出た場合は、「それはどこに書いてあるのかな」等と問い返す。 ○全体の話合いが深まるように、児童の発言を基に「費用」「雇用」等の観点を示す。</p>	<p>・これからの日本の自動車づくりについて、自動車づくりの工夫と社会的な問題とを関連付けて考え、適切に表現している。【思】</p>	<p>1 本時 (7/9)</p>
<p>○現在、どのような自動車の開発が進められているのか調べる。</p>	<p>○これからの自動車づくりについて考えることができるように、「交通事故」「環境問題」等の資料を提示する。</p>	<p>・自動車の生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応して自動車づくりを行っていることを理解している。【知】 ・国民生活を支える自動車工業の役割や発展について考えようとしている。【関】</p>	<p>1</p>
<p>考え・まとめる</p> <p>○学習問題についての答えをまとめる。 【期待するまとめの例】 自動車の生産に関わる人々は、様々な工夫や努力をしてよりよい自動車をつくり、輸送方法を工夫するなどして、世界中に日本の自動車を運んでいる。</p>	<p>○単元全体を通して学んだことを振り返り、学習問題に対する自分なりの答えをまとめさせる。</p>	<p>・自動車の生産に関わる人々は、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をして、自動車の生産を支えていることを理解している。【知】</p>	<p>1</p>

6 本時の目標

今後の日本の自動車づくりについて「国内生産」と「現地生産」のどちらを優先すればよいか，資料を基に考え，表現することができるようにする。(社会的な思考・判断・表現)

7 展開(全 9 時間 本時 7 / 9) …質的改善を図った手立て

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 本時のめあてをつかむ。 〈学級全体〉	○本時のめあてをつかみ，学習の見通しをもつことができるように，自動車の輸出量や，現地生産の仕組みについて前時の学習内容を基に振り返らせる。
めあて これからの日本の自動車づくりは，「国内生産」と「現地生産」のどちらを優先すればよいのか。	
2 「国内生産」と「現地生産」のどちらを優先するかについて，自分の考えを発表する。〈個人〉	○自分の考えを分かりやすく伝えることができるように，「私は○○を優先するべきと考えます。資料○番から～～ということがわかります。このことから～～と考えるからです」のように話形を示す。 ○資料から読み取った情報と事実を基にした考えとを分けて考えることができるように，根拠が不明瞭な意見が出た場合は，「それはどこに書いてあるのかな」等と問い返す。
3 同じ考えの児童同士で集まり，反対意見を考える。(つぼみタイム) 〈同じ考えの児童のグループ〉	○意見を書くことが苦手な児童も反対意見を書くことができるように，教室の前方・後方に分かれさせ，同じ考えの児童のグループで相談するように促す。(つぼみタイム) ○つぼみタイム及び学級全体の話し合いに自信をもって臨むことができるように，反対意見を書いた児童から教師の元へノートを持って来させ，評価を行う。
4 学級全体で，話し合う。 〈学級全体〉	○目的意識をもって全体の話し合いに臨むことができるように，話し合いを始める前に，目的「全体で考えを深めること」を確認する。 ○話し合いをスムーズに始めることができるように，つぼみタイムで考えた反論を言うように伝える。 ○話し合いがかみ合うように，児童の発言を基に「早さ」「費用」「仕事」「外国との関係」等の観点を示したり，それぞれの観点ごとに考えを比較させたりする。 ○全体の話し合いが深まるように，「早さ」「費用」「仕事」「外国との関係」等，観点相互の比較で問題について考えるように促す。 ○質問や反論をしたり，話し合い終了後に自分の意見をまとめたりすることができるように，必要に応じてメモを取ることを伝える。
5 自分の意見をまとめ，意見文を書く。	○話し合いを経た自分の考えを書くことができるように，文

(個人)	章の型を示す。 ○説得力のある意見文を書くことができるように、「友達の意見」「観点」「根拠となる資料」を取り入れて書くように伝える。【評価】
------	---

8 本時の評価

評価規準	今後の日本の自動車づくりについて「国内生産」と「現地生産」のどちらを優先すればよいか，資料を基に考え，表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】		
判断するめやす (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況(C)
	今後の日本の自動車づくりについて，話合いの内容を踏まえ「早さ」「費用」「仕事」「外国との関係」等の観点の中から複数の観点で自分の考えを記述している。	今後の日本の自動車づくりについて，話合いの内容を踏まえ「早さ」「費用」「仕事」「外国との関係」等の観点の中から一つの観点で自分の考えを記述している。	(B)に達していない記述
→(B)，(C)と判断した児童への支援		→資料や黒板に書かれた意見を基に，もう一つ視点を選ぶように声掛けをする。	→資料や黒板に書かれた意見を参考に，自分の考えを記述するように伝える。
評価方法	ノート・ワークシートの記述の分析		